平成 25 年 7 月 16 日

各　　位

会 社 名　株式会社ヴィレッジヴァンガードコーポレーション
代表者名　代表取締役社長　白川　篤典
（ＪＡＳＤＡＱ・コード 2769）
問合せ先　取締役管理本部長　吉岡　敏夫
電話　052-769-1150

特別損失の計上及び業績予想との差異に関するお知らせ

平成25年５月期（平成24年６月１日～平成25年５月31日）において、下記のとおり特別損失の計上を行うこととなりましたのでお知らせいたします。また、平成25年１月７日に公表いたしました平成25年５月期の業績予想と本日公表の平成25年５月期決算に差異が生じましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

１．特別損失の計上並びにその内容

たな卸資産評価損の計上　4,691 百万円

当社は、当連結会計年度において、会計上の見積りの変更として、たな卸資産の評価基準を変更しました。

当社は、お客様に楽しんでいただくため、今までになかった独創的なワン・アンド・オンリーの店舗の空間の創造を目指しており、商品の仕入・陳列・店舗の演出についても店長に権限を委譲しております。

この方針により、店舗が画一的ならずに、個々の店長がそれぞれの空間を演出することで、商品は陳腐化することなく長期的に売れ続けると判断し、仕入後一定期間を超過した商品を営業循環過程から外れたものとして評価減を行ってきました。

しかしながら、現在、既存店売上高前年比が長期間低迷する中で、店舗空間の演出力が弱まってきており、商品力に頼った販売や仕入が増加傾向にあります。さらに、消費者の嗜好の多様化・変化の速度が速まっていることから、商品ライフサイクルの短縮化が進み、在庫の陳腐化リスクが高まりつつあります。特に、当連結会計年度においては、既存店売上高前年比が 93.7%と、当社上場以来最も低く、その一方で、1 店舗あたり在庫金額が最も増加する状況となったことで、在庫評価リスクが高くなってきております。

このような状況のなか、当連結会計年度において本部組織の見直しを行い、店舗業務の見直しや営業施策支援を行う営業企画部を新たに設置することで、店舗運営の支援機能の強化を図っております。また、平成26年5月期よりPOSシステムを稼働することで、従来よりも本部での店舗別の商品動向・販売状況の把握が可能となり、これらを分析し、必要な対策を講じる商品本部を新たに設置することで、より精緻な在庫管理を実施できる体制としました。

このような変化を受けて、たな卸資産に係る収益性の低下の事実をより適切に財政状態及び経営成績に反映させるため、たな卸資産の評価基準の見直しが必要な状況であると判断しました。

その結果、従来、「仕入から一定の年数を経過した場合に、100%帳簿価額を切り下げる方法」を採用しておりましたが、「過去の販売実績及び今後の販売予測を考慮し、段階的に簿価を切り下げていく方法」へ変更しております。当該変更による影響額は、連結損益計算書に特別損失として4,691百万円計上しております。

２．業績予想との差異

(1) 平成 25 年５月期　通期連結業績予想数値との差異(平成 24 年 6 月 1 日～平成 25 年 5 月 31 日)

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	43,184	2,344	2,437	1,230	円　銭 15,977.75
実績値（B）	43,765	2,525	2,703	△3,833	△49,828.99
差異額（B－A）	581	180	266	△5,064	
差異率（%）	1.3	7.7	10.9	△411.5	
（ご参考）前期実績 （平成 24 年 5 月期）	42,942	3,402	3,514	1,553	20,187.77

(2) 平成 25 年５月期　通期個別業績予想数値との差異(平成 24 年 6 月 1 日～平成 25 年 5 月 31 日)

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益	1 株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	37,285	1,737	839	円　銭 10,908.56
実績値（B）	37,758	2,081	△4,265	△55,437.61
差異額（B－A）	472	344	△5,104	
差異率（%）	1.3	19.9	△608.2	
（ご参考）前期実績 （平成 24 年 5 月期）	38,932	3,037	1,237	16,080.42

３．差異の理由

当社ではお客様に新しい発見や驚き、楽しさを提供できる空間づくりをめざし、店舗での提案力の強化に取り組むとともに、本部内で営業企画部門を設置することで店舗のフォローアップ体制の強化に取り組んでまいりました。その結果、当社の既存店売上高が前回予想を上回りました。

主にこの影響により、連結売上高は、前回予想を 581 百万円上回りました。利益面につきましては、当社の売上高の増加による影響のほか、当社での販売費及び一般管理費の削減、円安に伴う為替差益が増益要因となりました。上記の結果、連結経常利益は、前回予想を 266 百万円上回りました。

ただし、特別損失として、たな卸資産評価損を計上したことにより、当期純利益は、大幅に下回ることになりました。

以　上